

# グローバルな諸課題と日本・ASEANの対応



経済同友会主催夕食会

経済同友会は、ASEAN各国の企業経営者との継続的な交流・協力の枠組みとして、1974年から毎年「日本・ASEAN経営者会議(AJBM)」を開催している。AJBMは純民間の多国間フォーラムという特色を持ち、日・ASEAN経済関係の強化と、さまざまな共通の課題に関する意見交換を目的に活動してきた。

第38回を迎える今回は、昨年10月22日～24日、「東方政策30周年」を迎えるマレーシア・クアラルンプールにて開催。日本からは長谷川閑史代表幹事、共同議長を務めた小林栄三アジア委員会委員長をはじめ37名が参加、ASEAN各国から87名が参加した。

## オープニング・セレモニー

開会にあたり、アズマン・ハシム第38回AJBM議長(Am Bank Group会長)が挨拶を行った。アズマン・ハシム氏は、参加者を歓迎し、AJBMについて、日・ASEANの貿易・投資拡大

につながるような、さまざまな課題解決のプラットフォームとしての役割を期待すると述べた。

続いて長谷川代表幹事(武田薬品工業 取締役社長)が登壇し、世界経済の停滞・混乱が続く中、日・ASEAN双方が課題に直面していることを指摘。ASEANからは、こうした変化に対す

る強い危機感が感じられると評価した。また、アジアが世界経済の焦点となる中で、日・ASEAN関係を見直していく必要があると指摘した。

続いて、中村滋 駐マレーシア大使が内閣総理大臣の祝辞を代読、東アジアの一員として、各国との絆を強めていくことへの覚悟と、その手段として経済連携の推進に取り組む、というメッセージが紹介された。

開会式の最後に、ムヒディン・ヤシン マレーシア副首相の基調講演が行われた。副首相は、今後10年間の日・ASEAN経済関係のためのロードマップの策定と、その成果に対する期待を述べた。

## 第1セッション

### グローバルな諸課題と日・ASEANの対応

#### 第1部 アジアが直面するグローバルな諸課題

前半は、オン・ケン・ヨン元ASEAN

### ■第38回日本・ASEAN 経営者会議プログラム

10月22日～24日

- 1日目 ●AJBM推進委員会
- 2日目 ●オープニング・セレモニー
  - 開会挨拶：YB Tan Sri Azman Hashim 第38回AJBM議長(マレーシア)
  - 長谷川 閑史 経済同友会代表幹事(武田薬品工業 取締役社長)
  - 中村 滋 駐マレーシア日本国大使(内閣総理大臣メッセージ代読)
  - 来賓講演：YAB Tan Sri Muhyiddin Haji Mohd Yassin(マレーシア副首相)
  - 第1セッション 「グローバルな諸課題と日・ASEANの対応」
  - 第1部：アジアが直面するグローバルな諸課題
  - 来賓講演：H.E. Ong Keng Yong 元ASEAN事務総長(駐マレーシア・シンガポール大使)
  - 第2部：日本とASEANの対応 パネル・ディスカッション
  - 問題提起：上原 治也 経済同友会アジア委員会副委員長(三菱UFJ信託銀行 最高顧問)他
  - 来賓講演：YB. Dato' Mukhriz Tun Mahathir マレーシア国際貿易産業副大臣
  - 第2セッション 「日・ASEANビジネス連携」
  - 問題提起：梶 明彦 経済同友会アジア委員会副委員長(日黒雅叙園 取締役社長)
  - 日比谷 武 経済同友会アジア委員会(富士ゼロックス 常勤監査役)
  - 西井 元章 (味の素 ASEAN事業本部副本部長)他
  - クロージング・セレモニー
  - 来賓挨拶：石兼 公博 ASEAN日本政府代表部大使
  - 閉会挨拶：YB Tan Sri Azman Hashim 第38回AJBM議長(マレーシア)
  - 小林 栄三 経済同友会代表幹事・アジア委員会委員長
  - 第38回AJBM共同議長(伊藤忠商事 取締役会長)
- 3日目 ●AJBM推進委員会

事務総長（駐マレーシア シンガポール大使）による基調講演が行われた。

オン元事務総長は、ASEAN諸国が団結し、地域としての競争力を高め、近隣の諸勢力と拮抗していく必要があると指摘した。また、「いつまでもグローバル・サプライ・チェーンの底辺にとどまっていたはならない」と、さらなる飛躍への意欲を示した。

その一方、アジアでも、米国経済の停滞や欧州通貨問題の影響が実感されていると説明した上で、今後の課題として、自由貿易の一層の拡大、技術移転を通じたイノベーション拠点への飛躍、域内での人材流動化・活用の三点を挙げた。

あわせて、地域内の、そして日本などの主要パートナーとの「連結性（connectivity）」の重要性も指摘された。

## 第2部 日本とASEANの対応

後半は、この基調講演を受けて、各国パネリストから問題提起が行われた。日本からは上原治也アジア委員会副委員長（三菱UFJ信託銀行 最高顧問）が登壇し、中国における反日デモの高まりを背景に、多くの日本企業に、中国への過度の依存に対する懸念が生じていると説明。中国の外に資産と投資の分散化を図る「チャイナ+1」戦略を



各国代表者による推進委員会の様子



セッションでの質疑応答の様子

進める可能性が高いことを指摘した。上原副委員長は、これを日・ASEAN経済連携強化の好機と見なし、質の高い人材、輸送等、広い意味でのインフラ拡充に向けたASEANの努力が期待されると述べた。

その他、シンガポールからは、ASEANがより高い次元の経済統合に向かうべきこと、そのため、ASEAN域内の連結性向上が不可欠であることが指摘され、そこにこそ日本との協力の可能性がある、との問題提起があった。タイからは、日・ASEAN関係の本質的な変化として、日本がASEANの成長を支える関係から、諸課題を抱える日本をASEANが支える形へと関係が変化しつつある、との分析があった。フィリピンからは、インフラ整備が成長の基盤であり、それを通じてASEAN全体の魅力を向上させることが必要、との問題提起があった。

## 第2セッション

### 日・ASEANビジネス連携

第2セッションでは、日・ASEANの企業相互の連携による成果や、今後の協力の可能性について、パネリストより事例紹介が行われた。

日本からはまず、梶明彦アジア委員会副委員長（目黒雅叙園 取締役社長）が登壇し、日本におけるウエディング産業の成り立ちや発展の経緯と、さらには、アジア市場への進出・展開の状況が紹介され、それを踏まえて、日本のサービス産業のASEAN進出の可能性について提起した。

続いて、日比谷武アジア委員会委員（富士ゼロックス 常勤監査役）は、「経済性、社会性、人間性」を重視する同社の経営モデルについて説明し、それがアジアでどう実践されているかを紹介した。さらに、今後は、アジアにおける拠点の分散化を進め、ASEANにおける

インフラ整備やビジネス環境改善に共に取り組んでいく必要があると語った。

最後に、西井元章 味の素 ASEAN事業本部副本部長からは、長年にわたる同社の海外事業の実績を踏まえて、ASEANをはじめとする世界市場への拡大の経緯や、市場・製品両面での多様な展開、ASEANを拠点とした他市場への展開事例について紹介があった。

### クロージング・セレモニー

閉会式では、石兼公博 駐ASEAN代表部大使からの挨拶を受け、小林栄三 共同議長（伊藤忠商事 取締役会長）、アズマン・ハシム議長より閉会挨拶が行われた。

小林共同議長は、来賓、出席者各位に感謝するとともに、すべてのAJBM関係者の協力を得ながら、今後会議の一層の充実と目的の明確化に取り組んでいくと表明した。また、次回第39回AJBMを日本で開催する予定であることを発表した。

### 会議を振り返って

2015年のASEAN地域共同体設立に向けて、ASEANが一層の飛躍への意欲と自信を強めていくことや、日・ASEAN関係が本質的に変化しつつあることが、鮮明に表れた会議であった。

そのような中、日本側からは、中国との緊張状態を背景に、「チャイナ+1」戦略の一環として、ASEANの重要性があらためて認識されていることが指摘された。

その一方、ASEAN側からは、ASEAN域内の経済統合の加速に向けた「連結性向上」、特にインフラ整備、そして、ハイテク、イノベーション主導経済への飛躍に向けた技術移転という面において、日本への期待が大きいことも明らかになった。